福島 78 便（視察研修 5 号）＜川内村＞報告

（ 公開 ）

1. 実　施　日

2017 年 10 月 28 日（土）～29 日（日）

2. 目　　的

（1）東日本大震災と原発事故を『伝えていく』
（2）地元の現状、今を『正しく知る・伝える』
（3）自分たちにできることを『考える』

3. 主　　催

かながわ「福島応援」プロジェクト（kfop）

4. 協　　力

川内村
川内村商工会
川内村婦人会
かわうちワイン推進協議会
一般社団法人 日本葡萄酒革進協会
株式会社あぶくま川内（いわなの郷）
コドモエナジー株式会社（Cafe Amazon）

5. 視察研修実施資料

福島 78 便（視察研修 5 号）＜川内村様視察研修＞資料 20171028-29_v2.0（別紙）

かながわ「福島応援」プロジェクト（kfop）

目次

1． はじめに 3

2． 視察研修プログラムと場所・時間等 5

3． 参加者（欠席 **2** 名含む） 5

4． 視察記録（写真一部） 6

5． 視察研修記録 7

（補足） 31

1. はじめに

川内村　村長　遠藤雄幸　様
　　副村長　猪狩貢　様
元・川内村復興課長　井出寿一　様
川内村商工会　会長　井出　茂　様
元・川内へ迎える会 会長　秋元洋子　様
かわうちワイン株式会社　代表取締役　髙木　亨　様

関係各位には、川内村の視察研修にあたり調整とご案内にご尽力いただきありがとうございました。大変充実した研修となりましたこと、御礼申し上げます。

私たちも川内村とのご縁を大切にしてまいります。どうぞよろしくお願いします。

株式会社あぶくま川内　いわなの郷　　横山祐二　様
コドモエナジー株式会社　Cafe Amazon　川口司朗　様

団体での利用に快くご対応いただきありがとうございました。参加者も大変喜んでいました。
また機会がございましたら立ち寄らせていただきます。

私達が現地におもむく主旨

現地におもむいて初めてわかることはたくさんあります。
自分で現地を訪れ、自分の目で見て、自分の耳で聞いて、体感する。
そして、正しく知り、正しく伝える、それが大事なことと私たちは考えます。
今回の訪問はとても貴重な機会となりました。参加者一同大切にさせていただきます。

本報告書の項番 5 に、参加者の所感をまとめました。それぞれの個人の私見、感じたことであり、編集時も内容には手を加えていません。それぞれの感じ方として受け取っていただければと思います。

本視察研修での経験は、当会の活動報告等のなかでも紹介していきたいと思います。
また、ぜひ神奈川にもお越しいただき、なかなか現地に行く機会のない人にも直接お話をお伝えいただくことができればと思います。そのときはどうぞよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、川内村の皆様が不便なく安心して生活できるようになるまで、まだまだ課題もあり、ご多忙な日々が続いていることと存じます。皆様、健康にご留意いただき、村の皆様が一体となって未来を築いていかれますことを祈念いたします。

かながわ「福島応援」プロジェクト
代表　渡辺孝彦／広報　東尚子
参加者一同

2. 視察研修プログラムと場所・時間等

【視察 1】川内村内（案内：井出寿一様）
【研修 1】川内村について（講師：井出寿一様）
【研修 2】当時の状況について（講師：秋元洋子様）
【視察 2】【研修 3】大平ブドウ圃場（案内：高木亨様）
【研修 4】川内村の復興状況と今後について（講師：猪狩貢様）

2017 年 10 月 28 日（土）
葛尾村にて視察研修
17：00　川内村いわなの郷【研修 1】（宿泊・懇親会）

2017 年 10 月 29 日（日）
08：30　Cafe Amazon【研修 2】
09：50　大平ブドウ圃場【視察 2】【研修 3】
10：50　あれ・これ市場（買い物）
11：00　川内村役場【研修 4】
11：40　川内村内【視察 1】
12：00　帰路

3. 参加者（欠席 2 名含む）

（1）参加者数

	合計	女性	男性
参加者	16 名	7 名	9 名
宿泊者	16 名	6 名	10 名

（2）参加者年代

	30 代	40 代	50 代	60 代	70 台
年代	1 名	4 名	3 名	6 名	2 名

（3）参加者地区

相模原市	茅ヶ崎市	秦野市	葉山町	横須賀市
2 名	1 名	1 名	0 名	1 名
横浜市青葉区	横浜市神奈川区	横浜市金沢区	横浜市港南区	横浜市港北区
1 名	2 名	1 名	0 名	2 名
横浜市栄区	横浜市都筑区	横浜市戸塚区	埼玉県	東京
1 名	1 名	1 名	1 名	1 名

4. 視察記録（写真一部）

髙木様

井出寿一様

秋元様

ブドウ圃場の見学

川内村役場での研修

集合写真

5. 視察研修記録

（1）川内村内を視察して（視察 1 の所感）全般
（2）井出寿一様のお話をお聞きして（研修 1 の所感）
（3）秋元洋子様のお話をお聞きして（研修 2 の所感）
（4）ブドウ畑の視察、お話をお聞きして（視察 2、研修 3 の所感）
（5）川内村役場でお話をお聞きして（研修 4 の所感）
（6）参加して（個人全体所感、神奈川に向けて）
（7）川内村様、ご協力いただいた皆様へ
（村、井出茂様、井出寿一様、秋元様、高木様、コドモエナジー㈱川口様、村の皆様へ）

参加者による所感をまとめましたので、目を通していただけたらと思います。

報告の文章は、明らかな誤字脱字の修正を除き、原則として原文のままとしています。誤解や知識不足などによる不適切な内容や表現があるかもしれませんが、ご理解いただけましたら幸いです。

参加者の氏名は記載していません。内部記録としては、実名版を保存しています。

【参加者 No 1】（男性、60 代）

（1）川内村内を視察して（視察 1 の所感）全般

元気のある村だなとの印象を受けました。特に高齢者（村役場 OB 等）が元気でいろんなアイディアを持ち寄り復興に向けて歩んでいるなと感じました。葛尾村の印象とは随分違いました。24 年 1 月の帰村宣言からの取り組みには「ふるさとを取り戻すんだ」との強いメッセージを感じました。それが帰還率 80%を超えている理由ではないでしょうか？

（2）井出寿一様のお話をお聞きして（研修 1 の所感）

全村避難の経緯をお聞きしたことは勉強になりました。人口 3000 人の村に 8000 人の富岡町民が避難してきてたちまち食料不足に陥った経緯等、当時の状況が手に取るように伝わりました。そして 3/16 に郡山に全村避難、厳しい選択だったと思います。

（3）秋元洋子様のお話をお聞きして（研修 2 の所感）

自分のふるさとを何とかしようとの思いが強く伝わりました。婦人会の設立経緯もよく理解できました。

（4）ブドウ畑の視察、お話をお聞きして（視察 2、研修 3 の所感）

今年の 4 月に植栽をしたのでその後の状態を見れたことに感謝します。新しいプロジェクトを立ち上げた勇気と実行力に敬意を感じます。5 年後 10 年後が楽しみですが、高木さん等の健康を願わずにはいられません。無理をされず地道に活動して欲しいと切に願います。

（5）川内村役場でお話をお聞きして（研修 4 の所感）

震災時の役場の対応や今後に向けての方向性がわかるご説明を頂きました。子育て、雇用、教育を復興の柱と考え、保育園～高校までの一貫教育との説明には感銘いたしました。

（6）参加して（個人全体所感、神奈川に向けて）

「日常生活を取り戻す」という当たり前のことから始めなければならないという、今回の大震災はやはり限りなく壮大な未来へ向かっての挑戦だと感じました。

（7）川内村様、ご協力いただいた皆様へ

復興にはスピードが求められますが、そのスピードについて行けずに立ち止まったり挫折してしまう人もいると思います。そういう人たちの心のケアも大切にしながら前に進んで欲しいと感じました。お忙しい中ありがとうございました。

【参加者 No 2】（男性、60 代）

（1）川内村内を視察して（視察 1 の所感）全般

どの方もお話に際して資料を用意してくださり、そして、丁寧にわかりやすくお話をしていただきました。あらためてお礼申し上げます。また、綿密で配慮の行き届いた研修計画を立てて実行された kfop の方々にも感謝いたします。

（2）井出寿一様のお話をお聞きして（研修 1 の所感）

（井出茂様）

原発事故直後の富岡町民の避難者受け入れと川内村住民の避難の様子と、現在までの村の復興状況のお話を伺った。元職員として、当時の職員の苦労したお話や村の状況を詳細に話していただき、特に行政側からの住民への配慮などが、とても参考になった。
（井出寿一様）
詳細な資料と共に、特に放射能汚染と計測、除染のお話を伺った。放射能の汚染に対しては極度の不安をもつ住民がいること、また、その住民の方々とコミュニケーションをとることの大切さを学んだ。

（3）秋元洋子様のお話をお聞きして（研修 2 の所感）

原発事故直後から現在までの婦人会の活動について、たくさんの貴重な当時の写真を載せた資料と共に、時間経過をおって詳しくお話ししていただいた。原発事故直後の炊き出しのお話などは臨場感を持って聞くことができたし、また、お話のところどころに当時の自分の気持ちを表現されて、住民の方のお話としては、かなり秀逸だった。現在までに至るまでにたくさん企画をされた婦人会の企画力と実行力には圧倒され、大いに感心させられた。
Cafe Amazon のコーヒーは香り高く、おいしかった。遠くから客を呼べる逸品である。

（4）ブドウ畑の視察、お話をお聞きして（視察 2、研修 3 の所感）

前日夜に、ぶどう畑をつくることになった経緯をお話ししていただき、2 日目午前でもバスの中でぶどう畑と付近の家々の解説をいただきながら、実際に畑のそばに降りて、見学した。
まだ苗木を植えたばかりで、これからワイン工場をつくり、3 年後にはワイン作りをスタートするとのことだった。高木さんはぶどうの木とワインの知識が豊富で、これからの村の産業をつくろうという意気込みが感じられた。

（5）川内村役場でお話をお聞きして（研修 4 の所感）

主に、川内村の避難区域の設定のことと、村の将来構想のお話を伺った。原発から 20km 区切った時の苦労話は当時の行政の人ならではであった。将来構想は、どれも村の将来の発展に寄与するものであり、全部が順調に実現すれば、村が発展する基盤になるだろう。

（6）参加して（個人全体所感、神奈川に向けて）

川内村は、原発事故の被害も比較的少なく、現在は温泉施設、宿泊施設、村内の店舗も稼働していて、マラソン大会も開催されるなど通常の他の村と同じように営まれている。しかし、
牧畜を復興させる計画を推進していると言っても、外国産牛肉の関税引き下げなどの情勢もあり、競争は厳しい。工業用地も整備して、いくつか工場誘致も決めているようだが、用地すべて埋まるかどうかはわからない。せっかく温泉施設と宿泊施設があるので、何か観光の目玉があれば、観光客を呼び寄せることもできるだろう。すばらしいホームページを作っているのだから、きっと何かできるだろうと思う。いろいろと村のポテンシャルを感じた。まだ未知数のワイン作りにも期待したい。

【参加者 No 3】（女性、50 代）

（1）川内村内を視察して（視察 1 の所感）全般

帰村率がほぼ 80%と、人口減少が問題になっている福島原発事故被災地としては、失礼だが珍

しいと思った。どうしても、前日の葛尾村と比べてしまうが、温度差を感じてしまう。
実際に、そこで頑張っている方々の熱量は同じなのにどうしてこんなに差が出てしまうのか、行政の取り組み方のちがいだろうか。
川内村もとても紅葉が美しく、清らかな川がながれていて葛尾村と同じように、ここが放射能で侵された場所だとはとても思えない。
しかし、キノコも魚も食べることができないという。なんともやるせない話である。
しかしここには小学校には小学生がいて、中学校には中学生がいるというあたりまえの風景がある。ほかの避難解除区域には見られない。
建物に人がいるのはあたりまえではないことを、福島に何度か足を運んだ私は知っているからこそ、新鮮にうつった。

（2）井出寿一様のお話をお聞きして（研修 1 の所感）

元川内村復興課長という行政の立場からの話を聞くことができた。震災直後の混乱の中、ここでも葛尾村と同じように国からの情報はなく大変だったという。
バスの車中からいろいろな施設の説明をしてくださり、一見は初めて見た私たちには前からそうであったように見えた。
「本来なら定年退職して、悠々と畑でもして過ごすはずが、こんなことになってしまった」と、笑いながらお話をされていたのが印象的だった。元気な笑顔に圧倒されてしまった。
村民のすべての方とコミュニケーションがとれているようで、震災がもしなかったらそうなっていなかったかもしれないとも話された。
前日夜の、いわなの郷での井出茂様のお話を同じように、「故郷をあきらめない」姿勢が強く感じられる話だった。
このように、熱く語れる故郷が、この方たちにはあるのだということを痛感した。

（3）秋元洋子様のお話をお聞きして（研修 2 の所感）

女性からの目線で語られるお話は、具体的に何があったのかとよく知ることができる。
スナップ写真の冊子はとても解りやすく、とても解りやすかった。
お母さんたちは、まずは「食べる」ことそこから始まる生きることの意味をよく知っているからこそできることをしていく、さすがだと思った。
身近な生活の部分から、衣食住を整えていけば大丈夫という基本的な考え方を実践されたのだろう。
写真は笑顔でいっぱいだったけれど、きっとつらかったこともたくさんあったはずなのに、こうして今もエネルギッシュに行動されている秋元様は失礼ですが、とても輝いて見えた。

（4）ブドウ畑の視察、お話をお聞きして（視察 2、研修 3 の所感）

3 ha の土地を村民総出で開墾したというブドウ畑は壮大だった。
交流人口、流入人口を増やすのが目的とのことだ。
若い世代の人口を増やしたい、そのためには仕事を確保しなければならない。そのためのワイナリーづくりだという。
福島はブドウの栽培に向いている土地で、福島ワインベルトという名称ができたらしい。
日本ワインというのは、日本でできた醸造用のブドウを使って作られたもので、すべてが日本

製ではなければならないことを教えてくれた。
ワインは好きでよくたしなむが、全然知らなかった。
ここが日本であることを忘れてしまうような、ブドウ畑の風景に期待しつつも、これからのさまざまな工程を考えると、とても果てしなくも思ってしまった。
醸造の技術は、天候は、それに伴う費用はなど他人事ながら気になってしまう。
いつかここでできたワインを飲んでみたい。
そのためにできることがあれば、ボランティアとしてぜひ参加してみたいと思った。

（5）川内村役場でお話をお聞きして（研修 4 の所感）

川内村副村長　猪狩様から、震災当初の国の対応はほぼなかったことをお聞きした。
どこの原発被災地でも必ず聞かされることだ。国は大丈夫と言うが、本当のところは原発に勤めている方々に情報をもらい避難を村独自で判断したと。
世間の人々はそのようなことがあったことを知らない。
想像を絶する混乱の中で、通常の 3 倍の業務を強いられメンタルにダメージを受けて脱落していく役場職員、商工会職員が数多くいたとのこと。大変なことあったと思う。
それでも現在帰村率 80%を超えるところまで持ってこられたのは、行政のやり方の成功例ではないだろうか。
また教育を向上させ、子供たちを育てるという考えは、高木様、井出様とも同じことを言われており村民たちが同じ方向に向かっている証拠であると感じた。
「住民がいて初めて行政。何かをするのに遅いということはない。」ときっぱりと言い切ったのが印象的だった。

（6）参加して（個人全体所感、神奈川に向けて）

重ね重ねになるが、どうしても葛尾村と川内村との温度差を感じてしまう。帰村率 14%と 80%の違いは見てからにその違いを示してしまう。
今まで見てきた福島の原発被災地の中でも、確かに 6 年という歳月がたってはいるが、川内村は元気に映る。
何がその差を作ったのかは、私には推測もできないが、そこに暮らす人々の熱さは同じだ。
葛尾村の下枝様が言っていた「川内と葛尾を比べてはいけない。じーちゃんばーちゃんの生きがい、やりがいそれが幸せを思える村を作っていきたい。まずはそこから、今ここに生きる人たちのことを考える。」それも素晴らしいことなのではないか。
若い人ばかりでなく、団塊の世代もたくさんいて元気で、まだまだ働けるからどんどん呼び込んでみてはどうだろうか。

（7）川内村様、ご協力いただいた皆様へ

毎日大変忙しくされている中、私どものために貴重なお話を聞かせてくださり、ありがとうございました。
これまで東日本大震災の被災地にはたくさん足を運ばせていただき、微力ながらボランティア活動をさせていただきました。
自分の生涯でまさかこんなにたくさん東北に行くことになろうとは、想像しなかったことです。
震災から 2、3 年たったころ、福島の桃農家の知り合いからたくさんの桃が届きました。

風評被害で桃が全然売れないからと、送ってくれたのです。すごく甘くてとてもおいしくいただいたのを覚えています。
今回皆様に案内していただいた川内村で、たくさんの農作物やワインにこれからも注目させていただきます。
今はインターネットというものがありますから、情報はどこにいても得られます。
今回できたご縁を大切につなげていきたいと思います。
私は、埼玉で 200 床の特養で相談員として働いています。今後の職員会議で今回の視察の話をすることになっています。防災という観点からも、是非にと頼まれました。
皆様から学ばせてもらったことを引用することをお許しください。
最後になりましたが、どうか皆様お体に十分気をつけられてください。
またお会いできる日があれば幸いです。

【参加者 No 4】（男性、60 代）

（1）川内村内を視察して（視察 1 の所感）全般

葛尾村の倍ほどの人口だけれども震災前 3000 人程の小さな村が、何を生業にしていたのか、そしてその復興の現状はどうなっているのかを知りたいと思っていました。川内村に入って、人口に比べて広々とした山間の村だと感じました。また、原発事故の影響は周りの市町村と比べそれ程大きくなかったことが察せられました。

半数くらいの住民の方々が帰村され、新規転入者も 500 名以上に上るのに、行政の方々が懸念されていたのは、少子高齢化と人口減少の問題でした。最近話題となっている人口急減による「地方消滅」は、その要因として、少子と高齢化だけでなく“人口流出”が挙がっています。原発事故で全村避難し解除後に住民が特に若い人たちが戻らないのは“人口流出”と同じ状況であり、近未来の日本を先取りした状態を懸念されているのだと思い至りました。

この問題点をしっかり捕らえ、若い世代の帰村を促す子育て・教育環境の整備、新たな雇用の場の確保、高齢化に対応したインフラ整備など様々な対策を立案し実行されている状況を知ることができました。持続可能な川内村となるために、着実に前に進んでいると感じました。

（2）井出寿一様のお話をお聞きして（研修 1 の所感）

原発事故後の避難の様子、周りの市町村より早々と帰村宣言を出された当時の様子、村の復興の様子など、貴重なお話をたくさん伺うことができました。整然とお話されていましたが、当時の混乱の中での対応は大変だったと思います。その大変さの中で、行政が住民とともに村の将来を考え、問題点を正確に把握し、その対策を立案し実施されてきている事が良く分かりました。

（3）秋元洋子様のお話をお聞きして（研修 2 の所感）

全村避難からたった約 3 ヶ月で「かわうちへ迎える会」を立ち上げることができた理由をお尋ねして、村への強い思いだと答えておられました。でも、強い思いだけで行動に移せるものではないと思われ、立ち上げメンバーの方々の並々ならぬ実行力があって初めて可能になったのだと思います。このような住民の方々の、村の復興への強い思いも、川内村が着実に前に進ん

でいる要因のひとつだと思いました。

（4）ブドウ畑の視察、お話をお聞きして（視察 2、研修 3 の所感）

事業化には量が必要とのお話でしたが、ワインぶどうの畑の広さには驚きました。醸造して出来たワインに期待が膨らみます。高木代表のワイン作りへの熱い思いを感じましたが、合わせて川内村のために持続可能な地場産業としたい思いも強く感じました。事業の成功を祈っています。

（5）川内村役場でお話をお聞きして（研修 4 の所感）

猪狩副村長から、川内村の現状と今後について、的確に簡潔にお話を伺うことができました。少子高齢化と人口減少が問題点であることをしっかり捕らえて、今後も持続可能な川内村となるための施策を行っていることが良くわかりました。

（6）参加して（個人全体所感、神奈川に向けて）

全村避難の解除後の復興の状況について、言い方を変えると原発事故の放射能の影響について知りたいと単純に思って参加しました。しかし、川内村の方々は、半数くらいの住民の方々が帰村されているものの特に若い人たちが戻らないのは、「地方消滅」につながる“人口流出”と同じ状況であるという問題点を正確にしっかり捕らえられている事に、目から鱗が落ちる思いでした。持続可能な川内村となるために、対策を立案して実行されていることが良くわかりました。これからも川内村を見続けていこうと思います。

（7）川内村様、ご協力いただいた皆様へ

何かボランティアをするわけでもない視察でしたのに、対応に関わって頂いた役場の方々、お話をして頂いた井出様、秋元様、高木様、猪狩副村長様、井出様には案内もして頂き、ありがとうございました。視察の目的である川内村の現状を良く知ることが出来たと思っています。持続可能な川内村が、少しでも早く到来することを願っています。

【参加者 No 5】（男性、60 代）

（1）川内村内を視察して（視察 1 の所感）全般

前日の葛尾村と比べて、とても広い自治体だと感じました。

（2）井出寿一様のお話をお聞きして（研修 1 の所感）

（勉強になった事）
発災直後、職員の方が（避難してしまって）人数が足りなかった。
20 キロ圏内なのに他地域からの受け入れをしたために圏外とした自治体担当者としての判断。
震災後に役場の担当者として活動したが、住民から感謝されたことはない。
（私たちが何をできる？）
川内村に、何かということは、直接的にはありませんが、
私が住む町でも、いざとなれば役所からの案内も不十分で、自己判断で動くしかない、ということ、が充分理解できました。

（3）秋元洋子様のお話をお聞きして（研修 2 の所感）

（勉強になった事）
配付くださった「震災直後の活動資料」は、当時の皆さんの息づかいが感じられた。定年をむかえた後も、役場の先輩の方たちとともにボランティアとしてすぐ復帰されたご活動ぶり。

（私たちが何をできる？）
何か起きた時に、即応できるような態勢や仲間を作っておく事。

（資料の保存について）
パソコン文書は新たな情報が加わるとついつい、すぐ更新してしまうが、
「当時の報告書」はその後のフォロウを加えず、そのまま保存しておくこと。

（4）ブドウ畑の視察、お話をお聞きして（視察 2、研修 3 の所感）

（勉強になった事）
3 ヘクタール、8 千本、一本の木で 2 本のワイン。それに要する労力―という採算面の説明

（私たちが何をできる？）
高木さんからご案内頂いたブドウ畑維持管理のボラ募集に応募する事。

持続可能な生業・くらしとは何？を考えたいと思います。

（5）川内村役場でお話をお聞きして（研修 4 の所感）

（勉強になった事）
一見うれしい「転入者が多いこと」の負の側面も判った。人口 5 千人を超えないと自治体として維持が難しいというご説明。

（私たちが何をできる？）
直接的にはありませんが、同じような事情が自分の市でもあるという事を知っておく事でしょうか。

（6）参加して（個人全体所感、神奈川に向けて）

◆個人全体所管（葛尾・川内共通）
「研修便」というのは初めてでした。
作業ボラの場合の「訪問は一か所でかつその作業に関連した現地の方のお話を伺う」というのと違って、現地の方から伺った情報多くためになりました。今でも私の中で整理中です。

◆神奈川にむけて
私は横須賀市（人口 40 万）に住んでいますが、そのような規模とは違い、まさに、住民と顔が見えるつきあいができる自治体でこそ、発災時の、状況に応じた対応が可能だったのだと思います。
デカイ自治体だと、首長に当事者能力がなくなりますから。

→都市の自治体でも、町内会の活用？
（戦前の「隣組」のような上意下達ではだめ。住民の顔が見える対応ができるのは町内会）

「避難判断」は何か→「食料がない」が、お話からはっきりわかりました。

川内が富岡の人たちを受け入れたのに、そのあと、屋内退避（自分の家でたてこもる）は、不可能と判断したのは、「食料」の供給が不可であったこと。

（7）川内村様、ご協力いただいた皆様へ

井出茂様
川内を、子供を育てる町に、というお気持ちよくわかりました。ありがとうございます。
発災後、旅館やお蕎麦屋さんを東電の要望もあり続けることになった事など、当時の状況がよく理解できました。

井出寿一様
バスの中でのお話もとても楽しく、ありがとうございます。
発災時の村のご担当者としての奮闘努力、お疲れ様でした。
「20 キロ」とはどこだ？（私も今更ですが、「原発の「中心」とはどこか」を調べたい）
20 キロ内でも退避させられない場所があるから、それは「圏内」にするという判断。
村民としてのお話、小学校の時は、村民 6 千人以上、東京五輪時に萱の葺き替え時期だったが手配できず、トタン？ぶきになった。お子さんたちも関東に移られ、自分でこの家も最後かなぁという今のお気持ちなど。
村の歴史は失敗続き（松の植林など）のお話も、とても面白かったです。

秋元洋子様
配付資料で、当時のご活動の息づかいが感じられました。この資料はとても貴重です。
6 年も経ち、私自身も、その時どういう気持ちだったか忘れつつあります。それを想いさまさせてくれる感じがしました。
日野原先生がハイジャック事件の時に感じたことと同じお気持ち、心に残りました。
今後の活動も、おっしゃっていたとおり（無理をせずに）来られる方たちで続けること、これが一番ですね。ありがとうございました。

高木様
「持続可能な生業」、一元の村にあった仕事だけでなく、60 年続く仕事は何か？
この発想は、素晴らしいですね。
8 千本植えて、収穫時に販売はどのくらい？など経済事情よくわかりました。
ワイン談義、またお伺いしたいと思います。

【参加者 No 6】（女性、60 代）

（1）川内村内を視察して（視察 1 の所感）全般

どこにでも素晴らしい方はいるものだと本当に素敵な方々にお会いできたことが大感激でした。
やはりあの 11 日からのビッグパレットに避難するまでの日々、「死んでしまうのかと恐怖におびえた日々」だったと生々しい言葉と、村を思うみんなを思う言葉にあふれたお話を聞かせていただき、そしてその方たちの連携、ふるさとを思う皆さんの思いの強さをしみじみ感じられた視察でした。

（2）井出寿一様のお話をお聞きして（研修 1 の所感）

本当にタフな方だと感動しました。作っていただいたパンフレットも力強く、わかりやすく、大切にさせていただきます。
人材を育てるのがミッション、働き方改革とまだまだこれから始まったばかり。そして日常生活を取り戻すことが第一、農業の大切さを熱心に話されてたこと、一つ一つに焦点を当て、なおざりにしないこと。整然とした川内村のたたずまいそのままと思いました。
井出寿一さんのエネルギッシュな活躍にあこがれる次世代の方々が引き継いでいくのだなあと思い、また村外からの移住者にも目を向け、新しい村にも思いをはせることができる柔軟な考えも素敵だと思いました。
川内村に　井出寿一　ここにありという感じでした。

（3）秋元洋子様のお話をお聞きして（研修 2 の所感）

婦人会の活躍、やはりすごいです。早く戻られ、村民の帰る場所づくりと勇気、行動力を備え持つ方。
やはり考えのわかる関係にある村だからこそだろうと、そして浜通りの婦人会連合会で皆さんとつながっていることで増々心強い活動になられていることと思います。
戻られた当初、動物がいて怖いような日々を過ごされていたとは、全く想像もできませんでした。浜通りの情報ばかりがすべてと思い、川内村でこんなご苦労をされていたとは。
若い方が少ないのはどちらの地域もですが、大切な婦人会がずっと続いて活動されますようにと思います。

（4）ブドウ畑の視察、お話をお聞きして（視察 2、研修 3 の所感）

なぜこんな土地がと思いましたが、牧草地に造成されたところと思い、納得でした。
村をあげたワイン造り、そして有識者の移住、60 年はいけると壮大な計画に驚きました。
2020 年以降、川内産ワイン、楽しみに待ちます。

（5）川内村役場でお話をお聞きして（研修 4 の所感）

コンパクトなまちづくり
少々不便でも安心して暮らせる村
一日も早く被災地からの脱却

役場のスローガンが印象に残りました。
そして復興事業に携われている方々に転入 500 人以上と、そして結果に出てしまう問題点など、

ご苦労は次々にできるものだとも驚きました。

（6）参加して（個人全体所感、神奈川に向けて）

世界で一番初めに川内村が除染を経験したとか、上水道はないので飲み水はすべて湧き水と、初耳でした。
とても丁寧な資料とともにお話をたくさん伺い、今まで川内村はすぐに解除されて以前のくらしが沿岸部の村よりも進んでいるとの思い込みが間違っていたとわかり申し訳ありません。
あれこれ市場で娘さんを連れ野菜を買っていた村の方がおられましたが、これからもっともっとお店ができ子供が遊んでいる風景等に出会える日が来ると思っています。
（何しろとても力強い方々にお会いした影響か）

（7）川内村様、ご協力いただいた皆様へ

たくさんのお話とともに丁寧な資料をありがとうございました。
本当に清々しい村だと感じました。皆様のエネルギーと美しい風景と空気。震災前の川内村はさぞかしと想像します。
自慢のふるさと、昔とは違ってもこれからの世代もきっとこれからの川内村がどのように変わってゆくか、希望を持ち続け支える人材となってゆくと思います。
手本となるこんな日本初の困難に果敢に立ち向かった、立ち向かっている皆さんが目の前におられるのですもの。
お忙しい時間を私どものためお付き合いいただき本当にありがとうございました。
感謝の視察便となりました。

【参加者 No 7】（男性、60 代）

（1）川内村内を視察して（視察 1 の所感）全般

葛尾村から川内村へ行く道々でも紅葉に迎えられました。川内村小学校など新しい施設ができ、復興の進んでいることを感じました。しかし、目に見えないことが一番進んでいないのではないかと思った。

（2）井出寿一様のお話をお聞きして（研修 1 の所感）

歴史を遡り 3 つの失敗施策で、先を見通すことの大切である話であった。①当時常磐炭坑が盛んであった。炭坑の杭の需要を見越し、山に多くの松の植林をしたこと。その後エネルギーが石炭から石油に移り、炭坑の衰退で必要がなくなった。②放牧の為に、山を牧草地にしてしまったこと。③が聞けなかった。
大学との産学連携の取り組み、外の新しい力、考えを入れるようと取り組んでいる。私達の知らないいろいろな取り組み頑張っていることがわかった。

（3）秋元洋子様のお話をお聞きして（研修 2 の所感）

震災の当日そして避難の様子を聞き、役場の職委員としての早い取り組みに驚きました。震災 3 ヶ月後に「かわうちへ迎える会」の立ち上げ、このスピードと発想に驚きました。震災前までの川内村の人間関係、環境がこの様な発想を生み出す関係、人づくりをしていたのかな！と考えました。それと、秋元洋子さんのお人柄と思いました。

（4）ブドウ畑の視察、お話をお聞きして（視察 2、研修 3 の所感）

ブドウ畑を作るのに川内村の人達が、山を切り開き、石を一つ一つ拾い作ったブドウ畑。10 年後、今の小学生が大人になった時、ここで働けるブドウ畑と長い先を見据えた取り組みであった。ブドウ畑には、幾つかの種類を植え、ブドウの被害にも備え計画的に実践されていることを知りました。川内の名産のブドウ酒を早く飲みたくなりました。
「高田島ワインぶどう研究会」を作り、ぶどう苗木の防寒作業ボランティアやセミナーを開催し、幅広く人を集めみんなで人の繋がり、人づくり、ブドウ作りを知りました。

（5）川内村役場でお話をお聞きして（研修 4 の所感）

休日にも関わらず副村長さんから、今後の川内村のお話を頂きました。大事なお休み申し訳なく感じました。
「残念ながら、震災前の川内村には戻りません。生きる意欲や目標を見据えて新たな村づくりを進めます。」と元気なお話でした。話を聞きながら、「人口減少、高齢化社会に対応した推進」は、日本全国同じ問題を抱えている事だと思いました。川内村の取り組みが一つのモデルケースになるように思えました。
帰村について、時間が経てば経つ程、「村に戻る。戻らない。」がはっきりと二極化していきた話を伺い、その通りだと思った。その理由ももっともで、みんな本当は帰村したいができない苦渋の選択をしている。また、村は、安心して帰って来てもらえるように「村の復旧と帰村」への取り組みを行っていることを知った。神奈川のように大きな組織、沢山の職員がいる所では無く、少ない職員で頑張っている。都会感覚で見ている自分に気付かされた。

（6）参加して（個人全体所感、神奈川に向けて）

今回の研修便でご一緒した kfop の福田さんが川内村の行事「川内の郷かえるマラソン」に参加したことをお聞きして驚いた。現在募集されている「川内フォトコンテスト」、川内村の素晴らしさ自ら見つけてもらう企画素晴らしいと思いました。福田さんは、これにも応募の予定で視察研修で写真を撮りながら、私達にも素晴らしさを教えてもらいました。いわなの郷（宿泊コテージ）では、紅葉した木々と雨に濡れた道に落ちていた赤い葉が綺麗でした。福島支援、いろいろ参加の仕方と応援を実践している人がいました。

（7）川内村様、ご協力いただいた皆様へ

私達の為に貴重な時間を有り難うございました。福島の人達がこのような辛い目にあわなければならないのか複雑な思いを抱きました。それでも、前向きにこれから良くしよう、自分たちの手で、故郷を取り戻そうとする前向きな姿勢を知りました。有り難うございました。

【参加者 No 8】（女性、40 代）

（1）川内村内を視察して（視察 1 の所感）全般

地理や歴史など、外から見ていてはなかなか聞くことのできないお話をたくさん伺えた。
村の大部分を占める山林をめぐる歴史や、畜産のお話がとても興味深かった。
震災まで東電の関連事業で働いていた人は収入がなくなり、また東側の行政区では富岡町という生活圏が失われたそうだが、田村市を生活圏にしていた行政区では影響も少なく帰還率が高

いことは知らなかった。
避難指示が出て、第一原発から 20km 件の円を描くときに、どこを中心にして測るかで賠償の差など後々問題になったというお話も生々しかった。

（2）井出寿一様のお話をお聞きして（研修 1 の所感）

川内村のホームページを見ても、被災や避難の状況についてまとまった情報を把握しづらかったが、今回、村の職員と環境省の職員を歴任された井出様から詳細な資料をいただいてよく分かった。
富岡町から避難してきた人々を村の避難所で受け入れてから、自衛隊の支援も来なくなり、食糧不足でやむなく二次避難することを決断されたことや、役場や商工会でも業務が膨大になり精神的に参ってしまわれた方がいたことなど、当時の苦労がうかがえた。
川内村は双葉郡の中でもかなり早くに帰村を開始し、野菜工場や工業団地の整備など、多くの資金を投じて帰村できる環境を整えたこと、また沿岸部にアクセスしやすいこともあり、新たな移住者や復興事業に従事する人々が入ってきた要因になったのだろう。
もともとの住民と新しい住民がうまくゆるやかに溶け込んで相乗効果が出てくるといいと思う。
行政の取り組みと合わせ、民間の力も重要。企業の誘致だけでなく、この地で起業する人が増えるような環境ができるといいと思う。

（3）秋元洋子様のお話をお聞きして（研修 2 の所感）

まだ原発事故による混乱と不安もあるなか、役場も村に戻っていない時期に、女性たちが「かわうちへ迎える会」を立ち上げ、「絆のひろば」を設けて常駐されていたというのは驚きだった。
生活環境が整わないなかで、さまざまな交流事業や祭りの準備も大変だっただろう。それだけ、ふるさとへの想い、愛着があるということ。村の方々にとって心強かったことと思う。
また、その後の婦人会の活動として、単身世帯や高齢世帯の見守り、お祭りやかえるマラソンへの協力、小中学校の教育現場への協力でも、村から頼られる存在なのだろう。
行政に求めるばかりでなく、地域住民の方々が主体的に行動されることは、その地域がうまくいく鍵になると思う。

（4）ブドウ畑の視察、お話をお聞きして（視察 2、研修 3 の所感）

若い世代が村から出ていってしまうという、震災とは関係なく地方がもともと抱えている課題を見据えて、持続可能な産業をつくるというお話に、とても期待しています。双葉郡のどこでも、数十年単位で事業を考えている例はあまり見られないように思う。
時間はかかるだろうが、ブドウは土地に根付くものであり、飲食やツーリズムも含めた広域の事業、魅力ある地域づくりができると素晴らしいと思う。

（5）川内村役場でお話をお聞きして（研修 4 の所感）

川内村は村内生活者率 81%と、数値では帰還がかなり進んでいるように思えるが、子どものいる若い世代がなかなか戻らない、復興事業関係の転入者が多いことは、広野町や楢葉町とも共通する課題だろう。ただ、川内村は、住居や職、医療など、生活基盤の拡充が格段に進んでおり、ここに移住して働くこともそう難しくないように感じる。
一方で、東電関係で働いて給与所得を得ていた人や富岡町を生活圏にしていた人が、どのよう

に生活再建できるかが気になる。

（6）参加して（個人全体所感、神奈川に向けて）

「2 年たったら心が離れてしまう」と、川内村の村長がかなり早い時期に帰村宣言を出したというお話を伺った。避難されている方々の中には、線量がまだ高くて不安だ、生活環境が整っていないという声もあり、そのお気持ちはもっともだと思うが、一方で、早い時期に帰れるようにしないと、事業の再開や元の住まいでの生活再建がどんどん難しくなるのは確かだ。帰る、帰らないというのは、あまりにも難しい問題で、当事者の方々が悩まれるのは当然であり、家族でも意見が分かれることもあるだろう。どのような決断をしても、また考え直して判断を変えたとしても、誰からも責められることなく、必要なサポートを受けられるようにと願う。

（7）川内村様、ご協力いただいた皆様へ

それぞれお忙しいなか、お時間を割いていただきありがとうございました。資料のご準備も大変だったことと思います。それぞれの想いをお聞きできたことは、貴重な経験になりました。
場所をご提供いただいた、いわなの郷 幻魚亭、Cafe Amazon の皆様にも、例外的な対応をしていただきありがとうございました。大変有意義な研修となりました。
これをきっかけに、また村を訪れる機会を持てるように、つながりを維持したいと思います。

【参加者 No 9】（男性、30 代）

（1）川内村内を視察して（視察 1 の所感）全般

川内村には 2014 年から今回も含め 5 回訪問させて頂いていますが、中心部は大きな変化もなく以前の町並みが残っているなかで、少し離れると新しいお店や工場などコンパクトな村づくりを感じられる施設が少しずつ増えていて着実に復興に向かっていることが感じられます。
津波被害や、大きな地震による被害もなく沿岸部の地域とは若干状況が違うとは思いますが、除染もいち早く完了し帰村へ向けての準備が早い村だと思っていました。
車の通りも多く、村民の方をよく見かけるので、帰村率も高いのではないかと説明を受ける前から実感していました。
ただ、新しい施設が多いので今後の維持費などを考えると、村の財政に少なからず影響を与えるのではないかと感じました。

（2）井出寿一様のお話をお聞きして（研修 1 の所感）

発災直後の状況や富岡町の方達が避難され受け入れを行い、自分たちも避難しなければならない混乱した当時のお話をお聞きして、当時のご苦労が生々しく感じ取れました。
特に富岡町の方達に、人が入れる所全てを開放し、多少窮屈であっても一人でも多く建物の中に入れてあげようという気持ちがとても川内村の方々の優しさを象徴しているように感じました。
帰村後も他の住民の帰村を促す事や復興作業員の宿泊施設がない事から、ご自身が経営されている小松屋旅館の再建、蕎麦屋の開店により、いち早い復興を遂げようという意気込みが感じられました。そのようなご努力もあり、人が集まる場所を作り、色々と決まるようになったと聞いて、スピード感と一体感のある復興を目指していた当時の状況をお聞きすることができて、

今後私たちの町で災害などが起きた場合の参考になると思いました。
現在は、認定保育所・小中一貫校などの一環教育を目指すなど子供の帰村を促す政策を検討されているなど、多岐にわたって検討されていることが分かりました。
その一方で、村の予算が震災前は 26 億円だったものが、復興の予算も加わり、110 億円に一時的に増えていて役場の金銭感覚がズレてきているとのお話を伺って、他の被災地では聞いた事のない、復興が進んでいる地域ならではの現状を初めて聞きました。
将来に向けて予算の適切な執行が求められると感じました。
また、村の今後の在り方として、農業の生産活動がカギとなると思いました。

（3）秋元洋子様のお話をお聞きして（研修 2 の所感）

富岡町の方達が避難された際に、婦人会総出で各お宅の食材を持ち寄り、炊き出しをされ着の身着のままの状態で避難された人達を向かい入れたとの当時のお話を伺い、Kfop の富岡町視察でお話を聞いた川内村の皆さんに大変お世話になったとの話を思い出しました。
その後、川内村も避難対象となり、自分たちも避難しなければならない状況になり、混乱の度が増していきビックパレットに避難していく当時のお話がとても印象に残りました。
また、秋元様は 3 月で定年を迎えるタイミングだったにも関わらず、震災直後から村の為にご尽力され、みんなで村を支えていこうという意気込みを強く感じました。
帰村後も少しでも村の為にと婦人会でご活躍されているお話を聞いて、このようなエネルギーのある方達によって復興が早く進んでいるのだと強く感じました。

（4）ブドウ畑の視察、お話をお聞きして（視察 2、研修 3 の所感）

川内村の今後のカギとなる農業の振興において、新たな産業としてブドウ畑からワインの醸造までをパッケージとして持ち込みをされ、ふくしまワインベルト構想を打ち上げていること初めて知りました。
最初は単にどこかの企業が入って行っているかと思っていたのですが、村を巻き込んで村民中心で運営していくことを前提に取り組まれていると知り、村や近隣地域の復興のための事業なのだと理解しました。
まだ、着手したばかりで実際の醸造を行うまでに早くて 2020 年と伺い、これからの話だとは思いましたが、強引に 2020 年にワインを完成させるのではなく、質の良いワインができなければ翌年、さらに翌年へ延ばし質の良い安定したワインの提供こそが、事業の継続にあたり大事なポイントだと伺いこの事業へ向ける真剣さが伝わってきました。

（5）川内村役場でお話をお聞きして（研修 4 の所感）

川内村では、避難指示の解除、除染など他の地域と比べていち早く取り組みをされ、復興へ向けて進んでいることが分かりました。
帰村状況も 80%を超え、元通りの生活に近づいているような印象を受けました。
インフラの整備や新たな農業の振興、住宅の整備、工業団地の整備（誘致）を積極的に行い、単に帰村を促すだけではなく、生活の基盤となる住宅や就業先も確保しながらスピード感のある復興を行われていると思いました。
村外からの交流人口もかえるマラソンで村民と同じくらいの参加者・家族等が大会期間中に訪れ、川内村を知ってもらい、来てもらい、感じてもらうことがうまく機能していると思いまし

た。
私も個人的にかえるマラソンに第 1 回大会、第 2 回大会に参加していますが、また来ようと思えるおもてなし、村民の方達との交流がとても楽しい大会だと感じています。
Cafe Amazon のオープンも村民の交流の場でもあり、来村者との交流の場にもなると思いました。

（6）参加して（個人全体所感、神奈川に向けて）

村の外観としては津波被害がなく、震災当時の状況を伺い知ることはできませんが、放射線被害という目に見えない被害と向き合っている川内村ですが、村民の方達の協力により復興のスピードが早い村です。
通っただけではわからないですが、立ち寄ってお話を聞く機会があればぜひ行って、見て、感じてほしいです。

（7）川内村様、ご協力いただいた皆様へ

お忙しい中、多大なるご協力を頂きまして有難うございました。
村民の皆様方の復興へ向ける思いが強く伝わってくる視察研修便でした。
来年もかえるマラソンで川内村へ必ずお邪魔しますので、半年後の更なる変化に期待を持ちながら川内村の復興をねがっております。

【参加者 No 10】（女性、60 代）

（1）川内村内を視察して（視察 1 の所感）全般

小中一貫教育、認定こども園、9 年間の義務教育を一貫してする、地方では珍しいなと思い巻いた。
校舎も立派で運動場も広々でした。今はまだ帰ってきている子供が少ないですが、放射能のことを気にせずに生活できるようになったらもどってこられるのかな。活気のある学校になるのかなと思いました。
ブドウ畑を見せていただきました。
お話を伺って高木さん、井出さん、地元農家さん、学生さん、ボランティアさん等、たくさんの方々の力が結集して新しいことを始められたのだなと思いました。
とても広い土地なので人の力ってすごいなと思いました。2020 年川内産のおいしいワインを飲んでみたいです。

（2）井出寿一様のお話をお聞きして（研修 1 の所感）

震災では死亡者が出なかった。地震の被害も少なかった。標高が高いから津波も影響も全くなかった。それはよかったが原発という一番厄介な災害の影響を受けたと悔しそうに見えました。
警戒区域ライン 20km 圏内を決めなければならない。どこでどう線引きをしたらよいか悩んだ。それでも決めなければならなかった。そしてあとになって線引きによって補償の額が変わるとなり「怒られ、責められることばっかりで、ほめられたことなんか一回もなかった」と言ってました。井出さんはじめ役場の方々は震災直後には短い時間の中でできることを精いっぱい考えてやっていたのにつらかったろうなと思いました。

震災の直後から村内の住民や村に避難してきた他村の方々の対応に忙しすぎて「あの時は死ぬかもしれないと思った」と言っていました。バスの中でのご様子からはその当時の井出さんは想像もつかないくらい明るく見えました。先に希望を持ってことを考えて前進されているのが言葉の端々に感じられました。
定住人口が望めないなら、交流人口を増やしていくというお考えがあるそうです。ブドウづくりとワインづくりと販売が順調に進んで、ワイナリーやレストランなどができて観光ルートになって希望が叶うとよいなと思いました。
井出さんが作成してくださった資料は震災直後から復興までのことをとても詳しく記録されていて、わかりやすくてすごいなと思いました。

（3）秋元洋子様のお話をお聞きして（研修 2 の所感）

定年退職を迎える間際での震災で、避難することになり、村の職員でなくなったわけですが、このままでは村民がばらばらになってしまうと心配になったそうです。
避難先のコミュニティのことを考え、ゴミ拾いのボランティアをしたりして、地元の方々と気持ちよく過ごせる努力をしたそうです。村民がつながっていられるように毎月のイベントなどを考えたり、参加したりして婦人会の皆さんで頑張ったそうです。
帰村してからは新しく前向きにを合言葉に、自分たちができることを見つけて、仲間と助け合い、励ましあいながら復興に向けて頑張ってきたそうです。

これから期待するところは、若い人たちに村に住んでほしいことだが、なかなか難しい。また子供たちの明るい声が聞こえないと復興にならないことや、一人暮らしの方や高齢者が孤立しないで生活できるようになど、様々な課題はたくさんあるけれど、高齢者の方々が村のために子供たちが戻ってこられるようにとよりよい復興を目指して頑張っているということでした。
お話をお聞きして感じたことは、今の自分たちのことだけでなくて子供たちの未来のことや、高齢者の方々のことを、みなが本気で考えて復興のための努力を続けていらっしゃるんだということでした。

（4）ブドウ畑の視察、お話をお聞きして（視察 2、研修 3 の所感）

福島でワイン作り。最初ピンとこなかった。山梨のブドウ畑の印象があるからかもしれません。今回視察研修で実際に畑を見たことでやっとイメージすることができるようになりました。
3 ヘクタールはとても広い土地でした。それを 1m も掘り出し、天地返しをしたと聞いてビックリしました。しかも畑に積まれた石の山は地域の方、ボランティア、学生さん、皆さんが手で拾い集めてできた山だと聞いてさらにビックリしました。
最近はワインを作るための苗が不足しているということで、高木さん自ら甲州ブドウ農園に行かれて、ブドウづくりを手伝い、作りかたを学んだそうです。そういったところから農園の方との信頼関係が築かれ、苗を分けてもらえたそうです。
ワイン作りは 60 年間持続可能な産業になる。植え替えをすればさらに伸びるといっていました。
子供たちの未来、村民の雇用のこと、復興のことを考えるとこの産業が軌道に乗り、復興が加速してほしいと思いました。

（5）川内村役場でお話をお聞きして（研修 4 の所感）

副村長さんが「残念ながら震災前の川内村には戻りません」と最後におっしゃっていましたが、人口を増やすために村外からの住民の受け入れを考えたり、新しい雇用の場を考えたり、居住環境を整備したり、たくさん努力されていると思いました。
新しい農業を進められていて、東京や神奈川方面へも出荷されているそうです。
求められる村づくりとして、少々不便でも安心して暮らせる村とありました。本当にそうなってほしいなと思いました。

（6）参加して（個人全体所感、神奈川に向けて）

たくさんの方のお話をお聞きしたのですが、何か駆け足をしているような忙しさで記憶の中に残るものが少なかったように思いました。
山々や紅葉がきれいで自然の豊かなところだなと思いました。村の方々は次の世代のことや子供たちの未来のことなど一生懸命に考えて復興に向けて頑張っていらっしゃることがわかりました。

（7）川内村様、ご協力いただいた皆様へ

視察研修へのご準備ありがとうございました。
皆様お忙しい中、お話していただきありがとうございました。
短い時間だったり、雨の中だったりと大変だったと思いますが、お話を伺えて震災時の様子とか今復興のためにがんばっていらっしゃることが少しわかりました。
これからも復興のためにご活躍されると思いますが、お体を壊さないようにしてください。
お世話になり、有難うございました。

【参加者 No 11】（女性、40 代）

（1）川内村内を視察して（視察 1 の所感）全般

お話して下さる方々に共通していたと感じたのは、「未来に繋げるために、それぞれが今できる事をやるその行動力」がある事でした。今回はそのお人柄が感じられるような話の記憶ばかりです。

（2）井出寿一様のお話をお聞きして（研修 1 の所感）

震災後は全ての自治体がそうだったのでしょうが、職員自身も被災している上に業務も多忙で、みな様本当にご苦労されていらっしゃると思いました。上手くやって当たり前、失敗すれば責められる。「復興の 1 丁目 1 番地は、できる人ができる事をできる時にやる」とおっしゃっていた言葉に強く共感いたしました。

（3）秋元洋子様のお話をお聞きして（研修 2 の所感）

震災後僅か 3 ヶ月余りで「川内村婦人会」を立ち上げた行動力にまず、驚きました。当時はまだ日本中が混乱していた時だったと記憶しています。その中で「自分たちができることを見つけ前進しましょう」という言葉に感動しました。

（4）ブドウ畑の視察、お話をお聞きして（視察 2、研修 3 の所感）

ワイン用ブドウ栽培というアイデア、規模の大きさ、立ち上げからスピード等々驚かされることばかり。官民あげての事業で冷ややかな意見もあるかと思いますが、東京オリンピックの 2020 年の初出荷に向けて応援いたします。

（5）川内村役場でお話をお聞きして（研修 4 の所感）

復興へ向けてのプランが多岐に渡っている上、かなり進行しているように感じました。震災後早い段階から行動されていたのかと想像します。

（6）参加して（個人全体所感、神奈川に向けて）

確実に復興へ向けて進んでいます。神奈川からでもできる事はあるので協力と応援を続けていきたいと思います。

（7）川内村様、ご協力いただいた皆様へ

色々な方からお話きけてよかったです。ありがとうございました。

【参加者 No 12】（女性、50 代）

（1）川内村内を視察して（視察 1 の所感）全般

復興課長を経て現在はメガソーラーはじめ発電会社の所長をつとめる寿一さん。最後までバスに乗りお話しくださり有難うございました。
かつては木炭生産日本一だったこと、電波時計の発信所があること、〇〇圏内は第一原発から測った距離であること、第 1～第 8 行政区があり各区により状況が違うこと、様々な取り組みにどのくらいお金がかかっているかなど、たくさんのお話をしていただきました。

（2）井出寿一様のお話をお聞きして（研修 1 の所感）

3/14 南東の風が吹いたことで原発の影響が大きかったと。地震そのもの津波での志望者はなく、影響は原発のみ。4/23 になり 20km 圏内は立ち入り禁止（4/22 までは自由だったのに）
水素爆発を見た時には死を覚悟したと。
3/16 に郡山へ避難した時にも国からは何の情報もなかったとのこと。20km で線引きをしたとき、20km 圏内に入った人は「どうして帰れない、入れないのか！」と言われ、補償金に違いが出ると 20km 圏外の人からは「どうしてそこで区切るのか！」と言われたとのこと。現場はきれいごとでは済まない。生活が懸かっているのだからと感じた。
世界初の除染作業は天皇皇后両陛下も視察に見え、ご案内をしたとのこと。初めての災害の中、日々の対応から未来に向けて小柄な方だが大きなバイタリティーを感じた。
露地野菜ができないため、野菜センターを建設したのも井出さん。

（3）秋元洋子様のお話をお聞きして（研修 2 の所感）

この方のどこにそんな力がと思うような静かな落ち着いたたたずまいの方。震災後 3 か月余りで川内へ迎える会を発足。
3 月末で村役場を退職するという立場から、奔走する村職員を間近でみてご自身は退職したということで動けたことも大きかったとのこと。

花を植え、七夕飾りを作り、料理作りでまつりに参加、女性ならではの視点や活動を実施。女性の強さを感じた。

（4）ブドウ畑の視察、お話をお聞きして（視察 2、研修 3 の所感）

なぜワイン用のブドウ畑なのか。
消費量が上がっているのはワインのみ。一時的なものではなく持続可能な生産業を。そのためには「夢」が必要。
村民総出で土壌改良から取り組み、周辺との連携を図り 10 年、15 年後には「ワインベルト」と呼ばれるように。
ワインを作るだけではなく、レストランや宿泊施設を併設するなど、ブドウ畑には裏打ちされた根拠があるのだというお話だった。
残念ながらブドウ畑は雨の中の視察となったが、思っていたよりも大規模だった。ソムリエの中原氏もお話しくださりありがとうございました。

（5）川内村役場でお話をお聞きして（研修 4 の所感）

平成 28 年 6 月に制限区域が全村解除となり、帰村率は 80%を超えるが高齢者率も高い。
20 年後を見据え、いつまでも賠償、補償に頼らず被災地からの脱却を目指し、インフラ整備やコンパクトな村づくりに取り組んでいる。国からの予算が一時的に入ったが、いつまでも続くものではなく新しいことへの活発な動きを感じた。
もともと草地だった場所にメガソーラー発電所を作り、税金やレンタル料を村の財源にする、工業団地を作り企業を迎え入れ居住者も増やそうという取り組みもある。もとに戻すのではなく新たな村づくりを目指して！！
子育て支援や働き方改革など、被災地でなくても課題とされる問題だと思う。ただ浪江でも言われていたシングルマザーに特化した積極的な受け入れや支援には少し違和感を感じた。

（7）川内村様、ご協力いただいた皆様へ

コドモエナジーが展開する福祉支援のひとつ「カフェアメイゾン」住みたくなるほどのここちよい空間でした。日常的にどの程度の集客があるのかわからないが、村民や村を訪れた人たちのいい居場所であり続けてほしいと思います。
いわなの郷、幻魚亭でいただいたいわなはとてもおいしかったです。
お忙しい中、それぞれのお立場での取り組みや思い、未来につながる構想などお話しいただきありがとうございました。

【参加者 No 13】（男性、70 代）

（1）川内村内を視察して（視察 1 の所感）全般

川内村は阿武隈山地の中ほどに位置し、総面積 197.38 ㎢で、総面積の 87.9%が山林で、農地は総面積の 5 %、約 10 ㎢である。古来からそのほとんどが村の共有林であり、林業の村で知られてきた。平成 23 年 3 月 11 日時点の人口は 3028 人、29 年 10 月現在の人口は 2711 人で、帰還者はその 82%の 2200 人（帰還率 81.2%）である。
10 月 28 日 17 時、国道 399 号線から入った観光・宿泊施設「いわなの郷」に到着した。夕食

後、川内村井出寿一元総務課長から当時の実際と現在の課題について説明を受けた。
川内村は平成 23 年 3 月 12 日、第一原発 10 ㎞圏内避難指示を受けた富岡町の避難者 8000 人が避難してきて、いわなの郷もその一部を受け入れ、満杯となった。さらに 3 月 16 日の早朝、川内村および富岡町の住民全員が郡山市へ集団避難することとなった。翌 17 日、川内村・富岡町合同対策本部が郡山市のビッグパレットふくしまに設置され、ビッグパレットふくしまは、一時は最大 10,000 人が避難することとなった。この間、混雑する中で、プライバシー・食物の確保・介護・療養・心の問題・学校その他当たり前の生活が喪失されたことなどへの対策など、多くの課題に初めて直面することとなり、それらの対応や手配などや県・国との協議などを通じて、村の職員や関係者は悩み、また学習し、手当した。
川内村は放射線量が全体的に低いことから、平成 23 年 9 月には 20～30 ㎞圏は緊急時避難準備区域解除となり、復旧計画・復興ビジョンの検討・除染計画の策定など、帰村へ向けての準備を始め、同年 10 月住民懇談会、11 月除染開始、24 年 3 月役場機能再開、同 4 月住民帰村が始まり、保育園・小中学校・診療所・福祉機能の再開、路線バスの新設などが行われた。平成 26 年 10 月には一部避難指示解除準備区域が解除となり、28 年 6 月全面解除となった。
この間、川内村では学校や宅地周辺の除染、農地 707ha の除染もが平成 24 年度までに完了し、25 年度は 88 戸、102ha で米の作付けが行われた。除染廃棄物は 2 か所合計 72,000 ㎡の仮置き場に仮置きしている。今後は 0.23μSv／h 以上の民家の二次除染と森林除染に取り組むこととしている。
生活の確保・雇用確保とインフラ整備については、村営公営住宅 25 棟の建設、診療所・専門医の招致、商業施設のオープン、田ノ入工業団地の整備、コンビニ誘致、田村市と小野町方面へのバス路線の開設、帰るかわうちメガソーラー発電所の設置などを実施するとともに、既存の宿泊・温泉施設などが再開されている。また、米作以外の新たな農業の展開を目指して、植物工場での野菜栽培、川内村の気候を活かしたリンドウの栽培、ワイン用ブドウ畑事業への助成なども行っている。
川内村は平成 25 年 3 月、第四次川内村総合計画を策定し、災害復興から地域創造を基本コンセプトに、「災害に強く、人（村民）に優しい新生かわうち」の創造をうち出した。若い世代が自由に学べ、工業団地整備の 300 人の雇用確保による若者や壮年世代が可能性豊かに働き生活できる地域社会、高齢者世代に優しい安心して暮らせる地域社会の創造をコンセプトとしている。
震災から 2 年半、川内村は平成 25 年 10 月現在の年代別帰村者を調査した。それによると、50 歳未満の帰村率は 31.6%に対して、50 歳以上の帰村率は 64.2%になった。特に若い世代の帰村率は、10 歳未満 19%、10 代 23.8%、20 代 32%、30 代 40.9%、40 代 33.6%であるという。上記のコンセプトを実現するためには、この帰村率では危うさを感じる。平成 29 年 10 月現在では、帰村率がどう変化しているのか、あるいは変化ないのか。

（2）井出寿一様のお話をお聞きして（研修 1 の所感）

詳しい資料に基づきご説明いただいて、川内村の先進的な取り組みがよく分かった。
浜通りの被災市町村で取り組み、あるいは取り組もうとしている復興と今後の地域構想には川内村の施策と共通あるいは類似するものが多い。例えば、放射性物質や放射線、その制御技術の研究、原子炉廃炉技術、材料、除染や減容化技術の研究施設などがいくつかの市町村で建設

されたり、計画されたりしている。原子力の研究者や専門家や学生もわが国では志願者が少ないと言われている。　被災地では各地の研究機関や大学と医療・調査・研究などのタイアップや支援を受けているケースもある。これらから研究者や専門家が輩出するようなことがあれば、それは非常に喜ばしいが、我が国の国民性か、親がそのような進路を望まないケースもある。各自治体の競合を排し、原子力関係の人材を育てる機会になることが望ましい。
また、現代の日本では、高齢化した地域が限界集落になり、消滅してしまう恐れは尽きない。折角の復興計画や構想が高齢化社会や限界集落で画餅に帰すことがないような施策が必要である。上述した川内村の年代別帰村率は平成 29 年 10 月時点ではどのように変化しているのか、あるいは変化ないのか知りたい。
若い世代が自由に学べ、若者や壮年世代が可能性豊かに働き生活できる地域社会、高齢者世代に優しい安心して暮らせる地域社会を創造するためには、やはり、地域への愛着とこだわり、活力とエネルギーが必要である。そして、その根底をなすものは住民一人一人の気概と健康と地域の経済力であろう。如何にして将来へ向けての気概と経済力を育てるかが大きな課題となると思う。
電源立地地域の市町村は、学校・文教施設・公共施設などの建設費は電源三法による資金に恵まれているが、将来的にはどうなるであろうか。

（3）秋元洋子様のお話をお聞きして（研修 2 の所感）

29 日朝、いわなの郷を出発し、09:20、Cafe Amazon に到着した。Cafe Amazon では、川内村の復興や地域の再生などについてのミニ講演会やセミナーなどが開催され、川内村の交流サロンの役割を果たしている。ここでコーヒーをいただきながら、かわうちへ迎える会の会長　秋元洋子さんのお話を伺った。
秋元さんは平成 23 年 3 月 11 日の震災発生時、川内村の職員、保育士で、同 31 日に退職予定であったが、12 日の富岡町の人々8000 人の人々の川内村への避難となり、秋元さんら 4 人は村の「あれ・これ市場」で炊き出しを行うこととなり、運命が変わった。同 16 日には川内村と富岡町の全住民合計約 10000 人が郡山市のビッグパレットに緊急避難することとなった。4 月中旬、秋元さんは川内村に帰ったが、村内の人々の世話や対応で混乱する役場で多忙を極め、5 月になって退職の辞令を受け取った。しかし、川内村元職員の責任感から震災後の人々への務めを怠ることができず、6 月 22 日、村の女性たち 39 名で「おらーの村復興に向けて考える会（かわうちへ迎える会）」を立ち上げ、以降、役場玄関前花壇の整備、帰村や食生活などについておしゃべりする会、配食、放射能に関する勉強会、「いのちの森づくり」などの活動やイベントなどを精力的に展開し、会は村民から絶大な信頼を受けることとなった。村内ばかりではなく、7 月には仙台市荒浜地区の津浪被災地を訪問し、植樹祭に出席して連帯を強めるなど、多くの活動をリーダーとして率先して行ってきた。平成 24 年 3 月には「かわうちへ迎える会」は解散し、以降、川内村婦人会として活動している。
秋元さんは、小柄で可愛く、優しく語りかける素敵な女性であるが、信念と判断力と実行力にすぐれ、組織のリーダーとして天性の資質・才能を持った方と思う。元公務員、元保育士の経歴と適性が、震災発生・避難・救援・帰村・復興などの活動に際して発揮されたものと思われる。非常時に秋元さんのようなリーダーがおられたことは、川内村にとっても村外の人達にとっても幸いであった。

リーダーとは何かを教えて頂いた思いがする。

（4）ブドウ畑の視察、お話をお聞きして（視察 2、研修 3 の所感）

高木さんは前日の夜、いわなの郷で合流され、前夜ご説明頂いた井出寿一さんも同乗されて木戸川上流の大平地区のブドウ畑造成地に向かった。お話では高木さんは東電福島原発でテクニカルコンサルタントを務めておられたが、第一原発の事故後、辞職され、現在は㈱川内ワインの社長として、川内村の最北西部、大平地区でワイン畑の造成と 3 年後のワイン醸造へ向けて努力されている。高木さんの願望は米作りや工業団地への企業誘致よる雇用確保ではなく、川内村の土地や気象を活かした特産のワインによる川内村の持続的な産業振興である。
平成 28、29 年でワイン醸造用ブドウ栽培圃場 2.67ha を造成し、赤・白・ロゼのブドウ苗木合計 9100 本を定植した。今後、地元やボランティアの協力を得てさらに定植し、平成 31 年以降に川内産ワインを出荷開始する計画である。川内村産の良いワインが生まれることを期待する。
高木さんはエンジニアからワイン醸造家への転身である。大転身して成功へ向けて努力を続ける能力はやはりリーダーとしての資質を示していると思う。予知できない困難はあろうかと思われるが、川内村のために成功されんことを祈る。

（5）川内村役場でお話をお聞きして（研修 4 の所感）

あれ・これ市場で川内村の特産品を購入した後、11 時に川内村役場に到着し、2 階の会議室で猪狩副村長が作成した資料を参照しつつ、川内村元副村長で商工会の井出茂会長の説明を伺った。（震災発災とその後の避難の経緯については重複するので割愛）
幸運であったのは川内村が震災発災後 2 年経過する前に帰村できたことであったと、言われた。郡山市への避難などで遠距離通勤が職員に負担で危機的になったこともあるが、子育て、雇用の確保、幼・小・中学校一貫教育ができたこと、日常生活を早期に取り戻すことができたこと、野菜工場の建設・操業が順調にいったこと、アパレル関連企業の誘致その他、早期に帰還できたことによる。
平成 23 年度の川内村の収支予算規模は 26 億円程度であったが、震災からの避難・復興・振興事業などで、一時は最大で約 120 億円規模まで膨大した。平成 29 年度は約 56 億円までにもどったが、予算規模縮小に伴い政策判断は難しくなり、適切な施策とそれを担う人材の育成が必要となる。
川内産ワインは成功すれば川内村の持続可能な産業の育成になるもので、村としても助成・支援していくと説明があった。

（6）参加して（個人全体所感、神奈川に向けて）

川内村は被災地市町村の中で帰還率が広野町と共に最も高く、復興への取組みも最も早く着手することもできた。3 月 12 日、14 日の水素爆発が当日の風向きにより、震災被災地に大きな違いを残したのは間違いないが、川内村としては幸運であったと思う。
また、現在、日本の名だたる大企業が経営や品質管理の瑕疵を露呈して、国際的にも信頼を損なっている。危機に当たっての、危機回避に当たってのリーダーの存在とその資質の重要性を思った。

（7）川内村様、ご協力いただいた皆様へ

ご多用にもかかわらず、この度の研修に親切・丁寧にご準備下さり、ご対応いただいたすべて

の川内村の皆様に、篤く御礼申し上げます。
特に詳細な最新の資料をご用意くださいまして、川内村の実情と課題についてお話を伺い、現地を視察できましたこと、まさに百聞は一見に如かずでした。
これら資料は、今後自分の活動に内在化して何が必要なのか考えていくとともに、他の人々にも川内村の現状を伝える良い資料になると思います。ありがとうございました。

（補足）

1．視察研修便参加者アンケート集計　　＜回収数 13、（）内は回答数＞

（1）参加のきっかけ

A（07）福島でボランティアをしたいと思ったから
B（00）街中（ホットスポット）掃除をしたかったから
C（06）日程や工程がよかったから
D（00）知人・友人に誘われたから
E（04）その他
X（00）無回答

（2）出発前の kfop からの案内

A（12）ちょうどよかった
B（00）少なすぎた
C（01）多すぎた
X（00）無回答

（3）今回の活動内容・時間はいかがでしたか

A（11）非常に満足
B（02）満足
C（00）不満
D（00）非常に不満
X（00）無回答

（4）活動（視察研修、全般）時間について

A（10）今回と同じ活動時間が良い
B（01）定時（16 時）まで活動
C（02）その他
X（00）無回答

（5）これからも参加したいですか

A（13）参加したい
B（00）参加したくない
X（00）無回答

（6）今回の活動についてご感想・ご意見・神奈川に伝えたいこと

・　どこの町村の役場の方々の中に、とても光る方がいて、とても皆さんから信頼されている。そして御苦労も見せずに活動をされている。いつもそんな方にお会いできるのがすごいことと思います。

- いつもの研修便より多くの方のお話を聞くことができてよかったですが、一人当たりの時間をもう少し増やしていただけるともっとよかったと思います。
- 福島の現状を周囲の人たちに正しく伝えたい
- 福島の人、自然を知り触れることができました。それぞれの取り組みの違いや考え方が違うことを知り、新しい発見と自分の引き出しが増えました。これが、生きるようにしたいです。神奈川へはお土産で伝えるつもりです。
- 震災に関するまだまだ知らないことを知って、そのことを職場で話したりしてるから、少しでも周囲に伝えていきたい。
- 葛尾村と川内村の視察研修に参加させていただきありがとうございました。渡辺さんと東さんが何度も打ち合わせをし下見をしてくださったから実現できた研修なのだと思いました。両村の方々との交流を深めてくださったから私たちが現地に行けてお話を伺うことができました。この機会を大切にし、つながっていけたらなと思います。
- 葛尾も川内も初めて来ました。自然あふれる素敵な土地だということ、広めたいと思います。準備がとても労力のいることかと思います。ありがとうございました。
- 地政的条件もあるが、両村における復興事業の進め方の実際を勉強できてよかった。特にリーダーの皆さんの能力、意志、統率力に感銘を受けた。いずれも長い間の種まきが次第に実ってきた過程を見ることができた。これらを今後の自分の生き方に少しでも反映できたらと思う。でもやはり帰還してもなお自分たちだけではままならない方々の、家々の片づけ、草取り、剪定などの仕事を手伝いたい。小高で一人で家を守っているおばあさんが気になる。
- 初めての場所だったのでとても勉強になりました
- 今回は行政だけでなく民間で活動されている話を同時に聞けたので、葛尾村と川内村の違いだけでなく、それぞれの視点で見たり考えたりして興味深かった
- ご説明していただいた方に感謝します。盛りだくさんでよかった。帰還困難区域に入れたこと、報告書にまとめます。そこの紅葉が美しかったことが哀しかったかな。
- 葛尾村、川内村が原発事故により全村避難をきっかけにして、消滅地方という近い将来日本が直面する課題にいち早く直面し、それを克服しようとしている現状が見えた思いがしました。2 つの村をこれからも見続けていこうと思いました。
- 今回の視察のつながりを形にして継続していけたらと。
- 調整で大変なことも多いと思いますが、これからも研修便を続けていただければと思います。
- 今後も研修便やボラバスを企画してほしい
- kfop のメンバー同士の話ができ、関係が深まった。長崎さんが素晴らしい絵を描かれることを知り、驚きました。kfop すごい方の集まりですね。今回はお酒飲みすぎかな!!
- 足を運ぶことが大切なことだと思うので、なかなか日程は合いませんが、今回のように合致するときはぜひ参加したいと思うので、これからも頑張ってください。
- 今まで通り福島とつながって活動していけたらよいと思います。なかなか参加できないですけど、私もずっとつながっていきたいです。
- 渡辺さん、東さんの常日頃の福島県内での活動とそれを kfop の活動として今回のようなものに実らせたことに感謝する。今回各訪問先の講師の方々のプレゼンと資料は大変良かっ

た。今後もこのような資料をいただけるとありがたい。
- 今後も視察研修便があれば参加したいです。第一回の「富岡その後」とか
- これからも視察便を出してほしい。行政や住民の方々から話を聞くのはとても参考になります。

（7）kfop の今後の活動に期待すること
- 今回の視察のつながりを形にして継続していけたらと。
- 調整で大変なことも多いと思いますが、これからも研修便を続けていただければと思います。
- 今後も研修便やボラバスを企画してほしい
- kfop のメンバー同士の話ができ、関係が深まった。長崎さんが素晴らしい絵を描かれることを知り、驚きました。kfop すごい方の集まりですね。今回はお酒飲みすぎかな！！
- 足を運ぶことが大切なことだと思うので、なかなか日程は合いませんが、今回のように合致するときはぜひ参加したいと思うので、これからも頑張ってください。
- 今まで通り福島とつながって活動していけたらよいと思います。なかなか参加できないですけど、私もずっとつながっていきたいです。
- 渡辺さん、東さんの常日頃の福島県内での活動とそれを kfop の活動として今回のようなものに実らせたことに感謝する。今回各訪問先の講師の方々のプレゼンと資料は大変良かった。今後もこのような資料をいただけるとありがたい。
- 今後も視察研修便があれば参加したいです。第一回の「富岡その後」とか
- これからも視察便を出してほしい。行政や住民の方々から話を聞くのはとても参考になります。

（8）参加者状況
①性別：男性（08）,女性（06）
②年代：20 代（00）,30 代（01）,40 代（02）,50 代（03）,60 代（04）,70 代（01）、無回答（02）
③職業：会社員（04）,自営（02）,パート（02）,家事（01）,フリー（02）,その他（01）、無回答（01）
④経験：初めて（00）,2-3 回（00）,4-5 回（01）,6-9 回（00）,10 回以上（01）、無回答（01）

以上

保護用紙